

競技注意事項

1 競技規則について

本大会は2025年度日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項によって実施する。

2 練習について

- (1) 練習会場及び競技場では、逆走、チューブ・牽引ロープ等の器具を使った練習、レーン内にミニハードル・マーク等を置いて行う練習は、危険防止のため禁止とする。
- (2) 投てき練習は危害予防に特に留意すること。投てき場以外での投てき練習は禁止する。
- (3) 投てき種目においては必ず競技役員の指示に従って練習すること。
- (4) 走路の使用は原則として次のとおりとする。(状況により変更がある場合は係員の指示に従うこと。)

◎本競技場	◆1～2レーン：中長距離 ※練習可能時間は開門時刻～9：00まで	◆3～7レーン：短距離	◆8～9レーン：ハードル
◎補助競技場	◆1～2レーン：中長距離 ◆3～4レーン：短距離(スタート練習はホームストレートスタート地点)	◆9～10レーン(ホームストレートのみ)：100mH、110mH	※ホームストレートは5～8レーンも使用可
	◆第1曲走路からバックストレート及び第2曲走路にかけての5～6レーン：400mH		
◎雨天練習場	◆1～2レーン：スタート練習 ※走方向については、南(1500mスタート地点)から北(200mスタート地点)への一方通行とする。(厳守)	◆3～4レーン：快調走	◆5レーン：復路 ◆6レーン：待機場所

3 招集について

- (1) 招集所は、本競技場メインスタンド下の室内練習場(100mスタート地点側)に設け、防風ゲート横扉から出入りする。
- (2) 招集時刻について
アトラック種目は競技開始20分前に完了する。
イフィールド種目は競技開始30分前に完了する。ただし、棒高跳は競技開始90分前に完了する。
- (3) 招集の方法について
ア競技者は、招集完了時刻までに招集所内の席で待機し、点呼を受ける。その際、アスリートビブス、スパイク、商標等の点検を受ける。(トラック種目のみ腰ナンバーカードを受け取り、出発までに右腰臀部に付ける。)
イビデオ装置、レコーダー、ラジオ、CDプレーヤー、トランシーバーや携帯電話もしくはそれらに類似した機器の競技区域内への持ち込みは禁止する。(競技規則6.3.2)
ウ代理人による点呼は認めない。多種目を同時に兼ねる競技者は「多種目同時出場届」(招集所に準備する)を競技者係(招集所)に提出し、競技進行に支障のないようにすること。
エ招集完了時刻に遅れた競技者は、棄権とみなして処理する。
オ欠場する競技者は招集完了時刻までに所定の「欠場届」(招集所に準備する)を競技者係(招集所)に提出すること。
カアスリートビブスは所定の大きさのままで胸部と背部に付けること。ただし、跳躍種目については胸部または背部につけるだけでもよい。

4 競技の抽選及び番組編成について(レーン順・試技順)

- (1) トラック競技のレーン順及びフィールド競技の試技順はプログラム記載順序による。ただし、準決勝・決勝の組み合わせ、レーン順は主催者が公平に決める。
- (2) トラック競技で次のラウンド進出者を決める際に同成績があった場合、0.001秒単位で判定をして進出者を決める。それでも判定できない場合は同成績とし、抽選により進出者を決める。(競技規則21.2及び21.5)
但し、空きレーンがあるか、走る場所がある(800m競走でレーンに複数割り当てられる場合を含む)場合、同成績者は次のラウンドに進むことができる。抽選が必要になった場合は、当該競技者にアナウンスで連絡し、大会本部にて当該競技者またはその代理人により抽選を行う。(競技規則21.3)

5 競技について

- (1) トラック競技について
ア一度の不正スタートで責任を有する競技者は失格とする。ただし、小学生については同じ競技者が2回の不正スタートをしたとき、その競技者を失格とする。また、小学生のスタートについて、スターティングブロックの使用は4年生以上の決勝のみとする。1・2年生はスタンディングスタートでもよいが、必ず静止すること。3年生以上はクラウチングスタートのみとする。
イトラック競技は全て写真判定装置を使用する。
ウ予選出場者が9人以下(リレーの場合は9チーム以下)となった場合は、決勝時刻に決勝を行う。(予選の招集完了時刻に決定)
エレーンの競走についてはフィニッシュライン通過後も自己レーン(曲線)に従って走ること。
オ長距離種目については、気象状況によっては給水を実施する。
カリレーに使用するマーカーは、1人1か所、貼ることができる。マーカーは前走者が取り除くものとする。
キ「リレーオーダー用紙」(招集所に準備する)は、各ラウンド第1組の招集完了時刻の1時間前までに、1部を競技者係(招集所)に提出すること。すべてのラウンドにおいて同様に提出すること。一度申告(提出)した後の変更は、招集完了時刻までに主催者が任命した医務員の判断がない限り認められない。招集完了時刻前であっても一度申告(提出)した編成の変更は認められない。医務員の判断による変更は、出場選手の変更のみ認められ、編成(走る順番)の変更は認められない。(競技規則24.12)

(2) フィールド競技について

- ア 競技場内での練習は、全て競技役員の指示に従って行うこと。
- イ 投てき競技の計測は原則として科学計測装置を使用する。
- ウ 投てき競技の滑り止め剤については主催者が用意する。
- エ 跳躍及びやり投の競技者は、助走路の外側（走高跳は助走路内）に主催者が用意したマーカを2個まで置くことができる。サークルで行う投てき競技は、マーカを1個だけ使用することができる。
- オ 三段跳について、踏切板の砂場からの距離は当日の気象状況等により決定する。
- カ 走高跳のバーの上げ方は、最後の一人になり優勝が決まるまでは下表のとおりとする。（ただし気象状況等により変更する場合がある。）

	練習	1	2	3	4	5	
小学男子	1m05	1m10	1m15	1m20	1m25	1m30	以降最後の1人になるまで3cm
小学女子	1m00	1m05	1m10	1m15	1m20	1m25	以降最後の1人になるまで3cm
中学男子	1m45	1m50	1m55	1m60	1m65	1m70	以降最後の1人になるまで3cm
中学女子	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	以降最後の1人になるまで3cm
高校・一般女子	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	1m50	以降最後の1人になるまで3cm
高校・一般男子	1m55	1m60	1m65	1m70	1m75	1m80	以降最後の1人になるまで3cm

キ 棒高跳の練習及び開始の高さは当日決定する。

(3) スポレク種目について

- ア 一般種目で人数が少ないものは、同時に競技する。
- イ 走幅跳、砲丸投、ジャベリックボール投は3回の試技とする。

6 競技用具について

- (1) 投てき用具は競技場に備え付けのものを使用する。ただし、個人所有のものについて、主催者による検査を事前に受け合格したものについては使用することができる。
- (2) 棒高跳用ポールは個人所有のものを使用することができる。
- (3) スパイク（ピン）の長さは9mm以下とする。走高跳及びやり投は12mm以下とする。ただし、小学生の800mはスパイクを使用しない。
- (4) 競技で使用する靴底の厚さは、20mm以下とする。スポレク種目についてはこの限りではない。

7 表彰について

- (1) 各種目第3位までの入賞者に賞状を授与する。
- (2) 男子女子各1名ずつに最優秀選手賞（会長杯）を贈呈する。

8 その他

- (1) メインスタンド開門時刻は2日間とも7：30とする。
- (2) 受付は2日間とも室内練習場で7：30より行う。
- (3) プログラム訂正は両日とも8：00までに受付へ申し出る。
- (4) 選手控え場所については、メインスタンド及びその中二階、芝スタンド（サイド、バック）とし、屋内練習場内及び補助競技場倉庫内の場所取りは認めない。また、メインスタンド及び中二階では、第1日目終了後にシートや荷物は全て撤去すること。
- (5) メインスタンドでの集団応援は、大会運営に支障をきたす場合があるため禁止する。その他の場所においても、フィールド種目の進行の妨げとなるような応援はしないこと。
- (6) 動画・写真の撮影については、メイン・サイド・バック各スタンドを問わず、その中段通路よりも上側で行うこと（ただし、試技に係るコーチ席及び表彰に係る指定された区域を除く）。それ以外においても、競技者保護の観点から厳しく対応する場合がある。（撮影した画像の確認、警察への通報等）
- (7) 日傘を使用しながらの観覧・応援等については、メイン・サイド・バック各スタンドを問わず、その中段通路よりも上側で行うこと。（後方観覧者等の妨げになるため）
- (8) 発病、負傷については応急処置を行うが、以後の責任は一切負わない。
- (9) 貴重品の管理は各人で行うこと。紛失の責任は負わない。
- (10) 当日の記録は鳥取陸協WEBサイトにて発表する。